

令和3年度

個別学力検査(後期日程)入学試験

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文	<p>問 1 (出題意図) 文章を理解しているかどうかをみる。 (解答例) 自分でお金を出さずに入手した本を読む読者 (20 文字)</p> <p>問 2 (出題意図) 文章を理解して、読み取った内容を的確に表現できるかをみる。 (解答例) 図書館は、無償の読書経験を提供して、多種多様な趣味嗜好を持ち、多様なリテラシーを備えた読書人を作り出し、維持するという役割を担っている。(68 文字)</p> <p>問 3 (出題意図) 文章を理解力に加え、広い視点からの発想力をみる。 (解答例) 高校で私服登校が可能であるにもかかわらず、一貫して基準服を着て登校しているのはその生徒にとっての一種の「理想我」になっていると考えられる。その基準服を着続けている生徒の中には、そのことによってファッションやおしゃれなど外見を良く見せることに興味がなく、もっとほかのことに興味や関心を持っているという自分を、他人や自分に対して表現しようとしている者もいると思われる。(182 文字)</p> <p>問 4 (出題意図) 文章の理解力に加え、広い視点からの発想力と論理的な思考力、文章の表現力をみる。 (解答例) 解答例 1 : (著者の主張に賛成の場合) ここで著者が指摘している点は、人間が誰でも他人から良く思われたいという願望を持っていること、そこに向けて努力している自分の姿そのものから他人に認めてもらいたいと思っていることにあると思われる。さらにその他人に未来の自分も含まれる点が特に重要である。私が小学生だったころ、自宅の応接間のガラス戸棚の中には全部で 20 巻程の百科事典が棚に並んでいた。私の両親が百科事典を読んでいる姿は見たことがなかった。あるとき私が読んでいた絵本をその戸棚に置いていたら、「自分の本棚に置きなさい」と言われた記憶がある。おそらく両親は、百科事典が全巻きれいに並んでいる戸棚のある応接間のイメージを大事にしていたのだろう。これによって私は知の体系性の重要性を学んだ。また私の父の田舎の家では、仏壇のある部屋の天井近くに先祖の写真がずらっと並んでいた。私はそれを見て「この家は古くから立派な人たちがいたんだな」と感じていた。先祖の写真は、</p>

古くから続く名家だという家の自尊感情を客人と共に自分たちに植え付けるためのしかけだと言えるだろう。(455文字)

解答例2:(著者の主張に反対の場合)

筆者は、『三週間で英語がマスターできる』のような、短期間で大きな成果が得られることをうたっている題名の本ばかりが自分の書棚に並んでいるのを見ることは、自分が基本的に「インスタントな人間」であるという認識を自分に抱かせ、そのような認識は、自尊感情の涵養に益することはないと主張している。しかし、私は、この筆者の主張は、あまりに断定的すぎると考える。なぜなら、筆者が、「本の背表紙」とその「表現しうる像」との間の、そして、「表現しうる像」と「自尊感情」との間の、ステレオタイプ的な関係にとらわれているように思えるからである。けれども、筆者の考えだけが、『三週間で英語がマスターできる』のような題名の本ばかりが自分の書棚に並んでいるのを見ることもたまたま像についての解釈ではない。たとえば、そのような書棚が、否定的な意味での「インスタントな人間」であるという認識を抱かせるものである必要はない。それは、もっと肯定的な「時間を有効に活用するという人間像」という認識を、その書棚の持ち主に抱かせる可能性もある。そして、「時間を有効に活用するという人間像」は、自尊感情に益するかもしれないのである。(493文字)